



…教科書の本文より…

「うわあー、踏んじやったー。」
靴の底にくっついたガムはなかなか取れず、ベタベタして歩きづらい。足が地面に引っ張られるような感じだ。
「誰が捨てたの。」
と、声を出してみても、一緒に買い物をしていた友達と別れた今は、返事をしてくれる人もいない帰り道である。
「まったくマナーが悪いんだから。この靴、今日初めて履いたのに。」 ……(略)……

教材名：あったほうがいい？（読み物資料）
～よりよい社会のために(社会参画、公共の精神)～

資料を読む前に散らかっている教室の写真を見ました。あまりの散らかり具合に驚きの声があがりました！



町をきれいにするのにゴミ箱は必要か、不必要なのか。

《必要》

一か所に集まっていた方が、そこらへんにあるよりはいい。

《不必要》

ゴミ箱がないなら、自分の家を持って帰って捨てればいい。

「おかえりなさい。あら、智子どうしたの。」
家に黙って帰ってきた智子に、夕食の支度を始めていた母親が声をかけた。智子は椅子にズドンと座るなり、
「さっき、街でガムを踏んでしまって、とてもいやな気分になったの。ガムをどこにでも捨てるなんてマナーが悪すぎると思わない。でもそこね、捨てるところもないのよ。だから、空き缶なんかもいくつも転がっていたし。まったくゴミ箱くらい置いておけばいいのに。そうしたら、みんなが入れてきれいになるのに。」
と、いきなり自分の思いをしゃべった。
「でも、それはどうかしら。」
それまで智子の話にあいづちを打ちながら聞いていた母親がつぶやいた。そして、
「ゴミ箱があることで別の問題も起こっているのよ。」
と、最近見たニュースのことを話した。
「コンビニの前に置かれたゴミ箱の中に、まったく分別もしていないゴミが持ち込まれているんですって。そのお店で売っている物でもないし、紙おむつもあったそうよ。ほかにも、高速道路のパーキングエリアのゴミ箱などにも明らかに家庭のゴミとわかるような物が大量に捨てられているんですって。」
「えーそうなの。」
智子は驚いた。
「ほかにもどこかの市では花火大会のあと、近所の庭先にゴミが捨てられていくのを避けるために、会場の河原でゴミを置いて帰るようと呼びかけ、集めたそうよ。そうしたらゴミの山がいくつもできて、翌日大掃除ですって。」
母親から話を聞いたあと、智子は考え込んでしまった。ゴミ箱があったら、ゴミが増える？ でもどこにでも捨てるよりいいんじゃない。私はゴミ箱があれば、利用するけど、みんなは……。
「街中にゴミ箱は置かないほうがいいのだろうか。」
と智子はわからなくなってしまった。

ルールにしばられた社会は本当に住みやすい町なのかな？



○ゴミ問題はそもそも何が原因で発生している？
・分別していないゴミ箱を見たら、他の人も分別せずにそのまま分別せずにゴミを捨てる。
・屋台とかあると食べ歩いて、そこら辺にポイ捨てをする。
⇒自分の家で同じようにするかな？



よりよい環境になるためには1人ひとりがどうすればよいだろうか。



- ☆一人ひとりが声かけをして、一人ひとりが意識する。
- ☆一人ひとりが身の周りのことを考える。
「自分の町」だから。
- ☆自分からゴミに対する呼びかけをしたり、ゴミを捨てる。
- ☆当たり前のことは当たり前にする。



多くの先生方に見守られながら、班での交流を活発に行うことができました！